

学位論文審査結果報告書

(西暦) 2021年 1月 14日

保健科学研究科長 殿

主審査教員	職名	教授	氏名	木村 博一
-------	----	----	----	-------



副審査教員	職名	教授	氏名	古田島 伸雄
-------	----	----	----	--------



副審査教員	職名	講師	氏名	木村 鮎子
-------	----	----	----	-------



下記の者から提出された論文を審査し、且つ最終試験を行った結果、

修士（保健学） ・ 博士（医療科学） ※いずれかを○で囲む

の学位を授与する価値があると認定しましたので、関係書類を添えて報告します。

記

論文提出者

保健科学専攻 (博士前期課程 ・ 博士後期課程) ※いずれかを○で囲む

医療科学

領域

氏 名 畠山 将太

論文題目

卵子と精子の融合による低侵襲性ヒト顕微授精法の確立に関する研究

論文審査の結果の要旨及び担当者

論文題目	卵子と精子の融合による低侵襲性ヒト顕微授精法の確立に関する研究		
申請者	島山 将太		
論文審査担当者	(職)	氏 名	
	主審査教員	教授	木村 博一
	副審査教員	教授	古田島 伸雄
	副審査教員	講師	木村 鮎子
論文審査の結果の要旨			
<p>学位申請者は、透明帯結合精子をインジェクションピペットで回収後、精子が高率で先体反応を起こしていることを明らかにした。また、透明帯結合精子を使用し、卵細胞膜を穿破せず、自然に近い状態で受精させる顕微授精法である ASFI(assisted sperm fusion insemination)を独自に確立させ、レスキューICSI (intracytoplasmic sperm injection)と同等の受精率および発生率であることを確認した。さらに、症例数は少ないものの本法により、3例の生児獲得例が得られた。従来の ICSI に代わる顕微授精方法として広く臨床応用されるためには、解決すべき問題点が存在する。よって、ASFI の確立は不妊治療、特に生殖補助医療の発展において大きな一歩をもたらす可能性を持っていると思われる。さらに、これらの研究成果は、博士論文として、著名な英文誌（査読付・インパクトファクター付）に2報公表された。</p> <p>以上のことから、本研究は、本学・学位[博士（医療科学）]授与の必要要件を十分に満たす内容であると判断する。</p>			

最終試験の結果の要旨及び担当者

論文題目	卵子と精子の融合による低侵襲性ヒト顕微授精法の確立に関する研究		
申請者	畠山 将太		
最終試験 担当者		(職)	氏名
	主審査教員	教授	木村 博一
	副審査教員	教授	古田島 伸雄
	副審査教員	講師	木村 鮎子
最終試験の結果の要旨			
2021年 1月 14日、最終試験を口頭で行った結果、合格と判定した。			